

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901407		
法人名	有限会社 ノースランド企画		
事業所名	グループホームらい鳥 2階		
所在地	北海道旭川市末広4条7丁目5番5号		
自己評価作成日	平成27年12月1日	評価結果市町村受理日	平成28年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人で、道路をはさんで向かいにグループホームらい鳥が建っている。病院が近く、医療連携がとれることで、体調面では安心感がある。スーパーも近く、日常生活用品やおやつなどは気軽に買いに出かけることができる。建物1階の玄関上部には屋根がついているため、夏場は外気浴にも適している。ホームの共有部分の窓は大きく、見晴らしが良い。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0172901407-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年3月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームらい鳥」は、大通りに面したバス停近くの住宅地に立地している。スーパーマーケットや協力医療機関である母体の病院が向かい側にあり、医療面も充実し、かつ利便性に優れた事業所である。居間は大きな窓に面した明るく開放感のある造りで、エレベーターは救急搬送などにも対応できる広さがある。管理者は、職員の意見や提案に日頃から耳を傾けながら計画的に内部研修を行うなど、職員の資質向上に向けて積極的に取り組んでいる。書類の提出や各種手続き、制度面の確認などで管理者が市役所を訪問する機会も多く、常に情報交換しながら連携を深めている。職員間のコミュニケーションも良く、管理者を中心に活発に意見を交換しながらより良いケアを目指して全職員で前向きに取り組んでいる。排泄面でも自立に向けて取り組んでおり、各利用者に応じた声かけや対応により、おむつの使用が少なくなるなどの改善がみられた利用者もいる。また、今年度初めて看取りを実施し、その後全職員で振り返りを行いながら更に学びを深めている。利用者に対する職員の優しい声かけや気軽に相談できる雰囲気、家族から感謝の言葉も寄せられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当グループ内で最初に開設したグループホームの職員全員で作上げた理念を共有し、実践につなげている	法人共通の運営理念とケア理念を基に、毎年独自の目標としてユニット毎に事業計画を作成している。理念は、毎朝の申し送りでも唱和しているが、会議などで再確認しながら更に全職員で理解を深めて共有していきたいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーへ買い物や散歩にでかけることで、この地域で暮らしていることを感じていただいている。開設当初より町内会への参加をお願いしているが参加に至っていない。	散歩や買い物で近隣住民と挨拶を交わしたり、七夕の「ろうそく出せ」で来訪した地域の子供たちに法被を着て利用者がお菓子を渡している。今年は、地域のゴミ拾いに参加したいと考えている。	外部の方々と交流する機会が持てるように、子供町内会やボランティアの方々に事業所の行事などへの参加を働きかけるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、グループホームの取り組みや日常をみていただき、認知症の方への理解が少しでも広がればと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加していただき、意見や助言をいただいたことについて、ホーム内で話し合いより良いサービスに繋がられるよう努めている	町内会長や利用者も参加して、避難訓練や感染症対策、ターミナルケアなどをテーマに実施している。今年度は3月の会議で6回の開催となる。会議案内を家族に送付しているが、参加は少なくなっている。議事録の送付は行われていない。	会議案内にテーマを記載して事前に意見を聴き取るなど、参加できない家族の意見も会議に活かすよう期待したい。議事録も全家族に送付するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の集団指導へ参加し情報収集に努めている。また、不明な点は確認し、運営などについて相談などもしている。	管理者は、書類の提出や介護保険の更新手続きなどで市役所を訪問した時に疑問点を相談したり、制度面について確認している。保護課職員に該当する利用者について相談するなど、日頃から市役所を訪問することで連携が深められている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行い、職場全体で身体拘束をしないケアに努めている。	マニュアルを整備して、「禁止の対象となる具体的な行為」について内部研修を行っている。日頃から職員間で対応を検討しながら、可能な限り拘束しないケアに努めている。危険を回避するため一時的に拘束が必要になった時は、家族と同意書を交わしている。今後も禁止行為について内部研修を定期的実施したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について研修を行い、虐待の防止と早期発見ができるよう努めている。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、必要とされる入居者、ご家族に説明や活用できるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、入居者、ご家族さまのお話を伺い理解、納得していただけるよう時間をかけて説明させていただきよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム入り口には意見を書き入れられるよう用紙を用意。契約書には苦情について外部へ表せるよう記載している。	家族の来訪時や電話の機会に率直な気持ちを聴き取り、家族からの意見や要望は日々の介護記録に記載している。今後は意見や要望を支援経過に個別に記録し、更に家族の想いを全職員で把握していきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの要望や意見は管理者が聞く機会を設け、それを代表者へ伝え、運営に反映できるよう努めている。	日々の業務の中で各ユニットリーダーが職員の意見や提案を聴き取り、毎月の全体会議で検討している。新人職員の話も新鮮で貴重な意見や提案と捉え、全職員で熱心に意見交換している。管理者は年2回の個人面談を予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、人事考課の実施を行い、職員のやりがいや現状の把握に努めている。職場環境などについては管理者より随時、定期に報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修の修得や実践者研修などをはじめ必要な研修がうけられるよう機会をもうけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の勉強会や研修会に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族から聞き取りをさせていただき、安心して生活を始められるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からお話をうかがう中で、気持ちに寄り添い、不安などが解消されるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の段階でお話をうかがい、グループホーム以外のサービス利用を含めた助言や提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員のお手伝いをお願いしたり、教えていただく姿勢を忘れず接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時にはご本人の近況をお伝えし、病院受診などはご家族に同行していただくなど協力させていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪者があった場合には、デイルームや居室でゆっくりと過ごしていただけるよう配慮している。	職場関係の知人や遠い親戚、馴染みの理容師が来訪する利用者もいる。以前からの趣味を継続して短歌の会に毎月作品を提出したり、年賀状のやり取りをしている利用者もおり、職員は投函などを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がおだやかに過ごせるように居場所を確保したり、また、ひとりで過ごせる環境を提供するなど入居者にあった過ごし方を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたあとも、相談などあれば支援できることをお伝えしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、入居者、ご家族から要望や希望をおききし、その時にあった支援ができるよう配慮している。	殆どの利用者は要望を表現してくれるので、意向を把握しやすい。センター方式の情報シートに興味や嗜好などを追記しながら定期的に書類を更新し、更に利用者の思いを把握したいと考えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人、ご家族にこれまでの経歴などを聞き、生活に反映できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や引継ぎをしながら、ご本人の様子が常に把握できるよう努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状態に即した必要な支援ができるよう、ご本人ご家族、関係者などと協議しながら介護計画を作成するよう努めている。	毎月のモニタリングや日々の変化をまとめた支援経過を基に、家族や本人の意向を確認しながら計画作成担当者を中心に4~6ヶ月で介護計画を見直ししている。今後は、定期的な見直し期間を4ヵ月程にしたいと考えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を毎日記録に残し、定期的に情報交換し介護方法や計画書の見直しに活用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに応じて、今後はショートステイを利用していただけるよう支援していく。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーへ買い物に出かけたり、入居前からの趣味が続けられるよう支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じ、かかりつけ医に受診できるよう支援している。また、ご家族さまにも受診時には協力いただいている。	利用開始時にかかりつけ医の継続も可能であることを伝えている。現在は全員が協力医の往診を受けており、専門医を受診する場合も家族と一緒に殆ど管理者が同行して健康状態を伝えている。受診記録は「療養シート」に個別に記載している。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が来訪時には、気付いたことなど気軽に相談できる関係ができています。また在総診を受けられる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	添書の交換や電話などで情報交換を密にし早期退院に向けて支援している。協力病院は同法人のため、相談しやすい関係ができています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ターミナルケアを行える体制がある旨をお伝えし、日常の健康管理を含め意向確認を行っている。意向については毎年文書で確認しつつも変更が可能なことをお伝えしている。	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成して利用開始時に説明している。医療行為などの対応は難しい旨を説明して、緊急時の対応などについて家族の意向を毎年確認して同意書を取り交わしている。今年度初めて1名の看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体の医療機関と連携しマニュアルを作成するとともに急変や事故等に対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練には、地域住民にも参加いただき行っている。	防災設備会社の立会いの下、昼夜の火災を想定した避難訓練を運営推進会議時などに実施している。災害備蓄品を整備しているが、災害時の地域との協力体制の確認は今後の課題となっている。	事業所としての方針を明確にし、運営推進会議などで地域との協力体制について再確認するよう期待したい。火災以外の災害時におけるケア別の対応についても職員間で確認するよう期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修、自己評価などを通じ、人格を尊重した対応を心掛けている。	接遇の研修を行い、利用者の尊厳を傷つけないように言葉遣いに気を配っている。書類の背表紙に各居室に付けられた花の名前を記載して、利用者のプライバシーに気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、自己決定やご本人の希望に添えるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者のペースを尊重し、毎日を過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に合わせたみだしなみに配慮し、月に1回程度、訪問理容を利用している。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作り、食後の食器拭きなど、出来る範囲で職員と一緒に頑張っている。	食材会社の栄養士が立てた献立で栄養のバランスが取れている。利用者の状態に合わせて刻み食やミキサー食を提供している。おやつに利用者の好きな物を提供したり、一緒に作ったりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立の食事を提供。食事摂取量や水分量は記録、引継ぎし日々必要な量が確保できるよう支援している。また、食事形態もミキサー食まで対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で行えない方も残存機能に合わせた支援を行い清潔に保てるようにしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄ができるよう、時間をみながら声掛けや、介助でトイレに座っていただけるよう支援している。	半数の方が自立しているが、全員の排泄を記録して声かけしながら座位が保たれない方を除いてトイレでの排泄を支援している。定期的な声かけにより、おむつの使用が少なくなるなどの改善が見られた利用者もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の入居者に合わせた工夫や、毎日午前と午後体操を行い運動への働きかけをおこなっている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員が都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ひとりひとりの体調にあわせて、ゆっくりと入浴していただけるよう支援している。入浴に拒否がある場合は、入浴日でも入れてもらえるよう対応している。	体調に合わせて、週2回の入浴を支援している。胃腸の方にはシャワー浴を行っている。入浴を拒否した場合は清拭にしたり、入りたい時に予定日以外でも対応している。また、必要な方には毎晩足浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	思い思いに休息していただいている。夜間不眠な方は、日中に起きて過ごせるように支援したりしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書を個人ファイルに保管し確認している。服薬時の症状などは記録、引継ぎし、医療と連携を図っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人が、グループホームでも「自宅」だと思えるように出来る限り思い思いに暮らせるよう支援している。			

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近所のスーパーへ職員と一緒に買い物へ出かけるなど、本人の希望に添えるよう支援している。	今年度は職員不足により外出する機会は少なかったが、玄関前で花火大会を行ったり、花菜里ランドに出かけて少しでも外出できるように工夫している。また、歩ける人は数人で散歩をしながら花壇や近隣の花を見て楽しんでいる。	季節に応じて玄関先での外気浴などを取り入れながら、車椅子を使用している利用者なども定期的に外気に触れる機会が増えるような取り組みを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や力に合わせて所持していただけるよう、ご家族様と相談のうえ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて、手紙や電話ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱をまねくような刺激がないよう、空間づくりに努めている。室温は1年を通じて同じ温度に配慮している。また、季節ごとに部屋の飾りを入居者と作成できるよう努めている。	居間には大きな窓があり、見晴らしがよく開放感がある。台所は対面式になっており、すべての居室が見渡せる造りになっている。また、季節の飾り物や手作り品、写真などが壁に飾られ和やかな雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ぼんやりと一人で過ごせたり、テレビをみたり体操に参加したりなど、思い思いに過ごせるよう、家具の配置にも配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や私物を持参いただき、ご本人が安心して居心地よく過ごしていただけるよう支援している。	木製のダンスとロッカー、電動ベッド、カーテンは備えられているが、時計 テレビなどは各自持ち込んでいる。写真や手作り品、職員が描いた誕生祝いの似顔絵とメッセージが書かれたものを壁に飾り、居心地のよい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、居室などがわかりやすい目印をつけたり、安全に移動できるよう家具を配置するよう努めている。建物内外はバリアフリーである。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901407		
法人名	有限会社 ノースランド企画		
事業所名	グループホームらい鳥 3階		
所在地	北海道旭川市末広4条7丁目5番5号		
自己評価作成日	平成27年12月1日	評価結果市町村受理日	平成28年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>母体が医療法人で、道路をはさんで向かいにグループホームらい鳥が建っている。病院が近く、医療連携がとれることで、体調面では安心感がある。スーパーも近く、日常生活用品やおやつなどは気軽に買いに出かけることができる。建物1階の玄関上部には屋根がついているため、夏場は外気浴にも適している。ホームの共有部分の窓は大きく、見晴らしが良い。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigrosyoCd=0172901407-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年3月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当グループ内で最初に開設したグループホームの職員全員で作上げた理念を共有し、実践いつなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	建物向かいの病院への受診や散歩で、この地域でくらししていることを感じていただいている。町内会への加入のお願いをしているが参加に至っていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、グループホームの取り組みや日常をみていただく中で認知症の方への理解が少しでも広がればと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加していただき、意見や助言をいただいたことについて、ホーム内で話し合い、より良いサービスに繋がられるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の集団指導へ参加し情報収集に努めている。また不明な点は確認し、運営などについて相談などもしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を行い、職場全体で身体拘束をしないケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について研修を行い、虐待の防止と早期発見ができるよう努めている。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、必要とされる入居者、ご家族に説明や活用できるよう努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、入居者、ご家族さまのお話を伺い理解、納得していただけるよう時間をかけて説明させていただきよう努めている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム入り口には意見を書き入れられるよう用紙を用意。契約書には苦情について外部へ表せるよう記載している。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの要望や意見は管理者が聞く機会を設け、それを代表者へ伝え、運営に反映ができるよう努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、人事考課の実施を行い、職員のやりがいや現状の把握に努めている。職場環境などについては管理者より随時、定期に報告している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修の修得や実践者研修などをはじめ、必要な研修が受けられるよう機会をもうけている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の勉強会や研修会に参加している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の現状が把握できるようお話を伺い、出来る限り安心してサービスが受けられるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族さまのお話をよく伺い、入居される方共々安心してサービスが利用していただけるよう説明をし関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が必要とされているサービスや支援方法を見極め、他サービスの説明も行うよう対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員のお手伝いをお願いしたり、誕生日には皆でお祝いするなど入居者同士が支えあえる関係作りができるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪された時にはご本人と一緒に過ごしていただけるよう配慮し、受診の時にはご家族に同行していただくなどお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人、知人など、訪問された際には過ごしやすい雰囲気作りに努め、入居後も関係性が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	思い思いにデイルームに集まり、またはお誘いし、職員が仲介しながら会話やゲームを通じて利用者同士がコミュニケーションがとれるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、必要に応じて相談や支援が出来る事をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族の意向に添えるよう把握につとめ、対応に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの聞き取りや、普段の会話からもアセスメントしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の様子を見守り、日々の記録、引継ぎをするなどし、全職員が把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状況に応じたケアプランとなるよう、ご家族や職員の意見も取り入れながら作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケアプランに添って記録し、引継ぎで職員間の情報共有を行っている。評価の時点での見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況やご家族の要望などに応じてグループホーム以外のサービスに繋がられるよう配慮している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る限り地域資源が活用していただけるよう支援していく		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望される病院を優先し受診を支援している		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と情報交換などし、適切に受診などができるよう努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院に入院時とはとくに連携し、早期退院にむけた支援をしている。様々な相談もしやすい関係ができています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに対応させてもらっていることを伝えていている。年に1回は意向の確認をし看取りケアの実践に取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体が医療法人のため、救急用の用具などを完備しており、毎月点検と、実践できるよう確認している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は避難訓練を行っている。災害については水などを備蓄している。			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応に気をつけるよう、接遇などの研修を行っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向や希望に添えるよう、支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の状況や要望に応じて、その日を過ごしていただけるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容をお願いしている。お化粧品など要望にも対応している。			

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の食器拭きやテーブル拭きを一緒に行っていた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取、水分量など毎食記録し、不足している方は個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別に支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄ができるよう、時間をみながら誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日2回の軽体操や、水分が摂れるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はきまっているが、入浴時間については体調や外出に合わせて調整などしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状況や要望により、休息出来る様支援している。日中は活動的に過ごしていただけるようにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬が把握できるよう、個別記録におくすりの説明用紙を準備。薬の効果や症状は記録している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の状況に応じて、楽しめる事を提供出来る様支援している。全員で楽しめるレクリエーションも取り入れている。		

グループホーム らい鳥

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診で外出する以外はなかなかでかけられなかったが、外気浴などができるよう支援していきたい。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している方はいないが、可能な方は持てるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は出来る方がいないが、可能な方には支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾や展示物を用意している。気温、室温などに注意し快適に過ごしていただけるよう配慮している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、イスなど配置し、思い思いに過ごしていただけるようにしている。また、過ごしていただいている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具などをお持ちいただけることを伝えている。入居後は状況におうじて家具の配置替えなども対応している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に目印をつけるなどの工夫をしている。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム らい鳥

作成日：平成 28年 3月 18日

市町村受理日：平成 28年 3月 23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出の機会が少ない	日常の中で、外気浴が出来る様にする	おやつの時間や体操の時間などに、短時間でも外気浴を行う	1年間
2	4	運営推進会議の議事録をご家族へ送付していない	運営推進会議のテーマと議事録を送付する	年度始めに、年間のテーマを送付／議事録は毎月のおたよりと合わせて送付	2年間
3	2	町内会の方との交流が少ない	町内会の行事への参加	町内会の行事の把握と参加	2年間
4	35	災害時の地域住民との連携が出来ていない	グループホームの消防訓練への地域住民の参加協力を得る	運営推進会議に消防訓練を開催	2年間
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。